

親の性教育経験の差異にみる子への性教育の実態

Report on parents' sex education on their children: difference in parents' experience of having sex education

畑中美穂

Miho HATANAKA

心といのちの性教育研究所

Lab. for Psychological Sex Education, Mind and Life

Key words: 性教育, 親の性教育経験, 子への性教育

目的

親から子への性教育に関連しては、日本における性教育の歴史上、親自身も性を科学や生物として学ぶ機会に恵まれてこなかったことが指摘されており(橋本,2015)、家庭における性教育は不十分と考える。本研究では小・中学生の子を持つ親が学校及び家庭で受けた性教育経験の差異に着目し、子への性教育の実態について分析する。

方法

- (1) **研究デザイン**: 自記式調査用紙による KJ 法を参考にした質的研究法
- (2) **調査時期と対象者**: X 年 9 月～X+1 年 9 月, A 市立小学校 6 校及び中学校 5 校に通学する児童・生徒の親
- (3) **実施概要**: 文書により倫理面に配慮して調査を行う旨説明し、調査用紙の任意提出を以て研究への同意とした。主要質問の内容は、①学校で受けた性教育はどのようなものであったか、②親と性について話をしたことがあるか、③子と性について話をしたことがあるか、④子の初経・精通時に何らかの対応をする(した)か、であった。
- (4) **分析方法**: 調査用紙提出総数 335 名分中、全ての記述項目に漏れのない 182 名分について、記述内容を読み込んで段階的に抽象度を上げていき要約して分類した。

結果

- ・分析対象となったのは全て母親からの回答であった。
- ・受けた性教育経験の差異により充実度は 4 群に分かれ、Ⅰ性教育充実群(学校及び親からの性教育あり) 16.5%、Ⅱ性教育なし群(学校及び親からの性教育なし) 29.1%、Ⅲ学校のみ群(学校でのみ性教育あり) 51.1%、Ⅳ親のみ群(親からのみ性教育あり) 3.3%、であった。
- ・親が学校で受けた性教育及び親と話をした内容の最多は共に月経についてであった。子への性教育では、①学校で性教育を受けた者は子と話をした者が多く、性教育なし群では子と話をしない者が多かった。また子と話をした内容の最多は月経についてであった。②学校で性教育を受けた者は子の初経・精通時の対応がある者が多く、性教育なし群では対応がない者が多かった。また対応の際に伝えた内容の最多は月経の処置に関してであった。

考察

本調査では学校で性教育を受けていないと答えた者が 32.4%であったが、対象の年齢分布に照らした国の施策に鑑みると原則的には性教育が行われている世代である。しかし実際には全ての者が十分な性教育を受ける機会を保障されているとは言い難く、その状況は現在に至るまで同様であり公教育に頼ることの困難さを示している。特に「性教育なし群では子への性教育や初経・精通時の対応がない者が多い」との結果は着目に値し、子世代以降に影響を及ぼし得る可能性を考慮すると、子に日常的に身近に接する者として親が担う役割は重要と考える。

一方、親が子と話した内容の最多は月経についてであるが主たる内容が処置の仕方だとすれば科学的な視点に欠けると言え、橋本(2015)の指摘に沿うものとして課題となる点である。また本調査では結果的に分析対象者全員が母親であり性教育をも担っている可能性があるが、子が男子の場合には異性であることを理由に行わない者が多く、「父親に任せる」者でもいつ・どのように話をしたかや内容の詳細の確認まではできていないことも推察される。学校・親から受けた性教育内容のいずれにも精通・射精に関する記述はみられず、総じて男子に対する性教育が疎かである(高橋,1999)ことを表すものである。

以上をふまえると性教育は量・質ともに充実が望まれ、家庭においてもその機能の一つとしての充実を図っていくことが重要と考える。近年、包括的セクシュアリティ教育の概念が広まっており、性についての生涯的な学びは男女共に必要である。家庭での性教育は長いスパンで行われるものであり、単に知識を伝えるだけではなくそれを語る親の在り方や「性とは何か」といった価値観をも伝え得る重要な機会でもある。“家庭が性教育の最初の場である”との認識のもと、親が次世代にも及ぶ健康教育の担い手としてロールモデルとなり得るよう、親への啓発的教育について検討することが必要である。

参考文献

- 橋本紀子(2015).ジェンダー・セクシュアリティと教育—海外の性教育関連教科書から日本の性教育を見直す—。女子栄養大学紀要,46,27-39.
- 高橋久美子(1999).中学生の父母はどう性教育をしているか—親と子の認知の比較—。日本家政学会誌,50(6),621-629.